

各セクションの報告・情報

THE: 現場

ぱれっとホーム

～えびす・ぱれっとホーム^{いてん}移転～

32年間住み続けてきたえびす・ぱれっとホーム(以下えびす)とお別れする時がきました。

えびすの老朽化や大きな地震に建物が耐えられるか心配の声があがっていました。隣の「ぱれっとの家いこっと」(以下いこっと)をグループホームに変えて住んではどうかという提案もあり、思い切って引っ越すことにしました。

6月に入って入居者の方たちが下見に行きました。「えびすと比べると、中に階段があるし、建物もきれいでした」「部屋もベッドもきれい、住みたい!」と、みなさんの声が弾んでいました。

●グループホーム(GH)に変更

えびすと同じように、GHに変えるには、建物に火災報知器や避難誘導灯、消化器などの設備を整える必要があります。カーテンも防災にする必要があります。消防署から建物の点検に入ってもらい、最後には東京都からの審査を受け、ようやくGHとして使用して良いという許可が下ります。



【新しいGHリビングにて】

●35度の炎天下の引っ越し

とにかく暑かった週末の土日、入居者総出で荷物の搬出に汗だくになりながら隣を行ったり来たり。32年間の思い出が詰まった段ボールの山の人、極シンプルな生活を送られ段ボール4つに収まった人、家具の裏側にたまったほこりの厚さがその方の生活の積み重ね、歴史がにじみ出ていました。思い切って断捨離を行なおうと声掛けをするのですが、中々捨てられず、段ボールの山がそのまま新しい部屋の収納先へと収まっていく人、年期の入った家具とお別れできた人など、引っ越しには色々なストーリーが垣間見えます。

●新しいメンバーとともに

えびすホームでの最後の晩餐をお寿司パーティでしめくくりました。さあ、明日から新居から仕事に出かけていきます。しっかり起きられるか、いつものYouTubeは少し控えめに、早く寝るように促します。

いこっとには元々お二人、企業就労されている方が住まれています。いこっとでの暮らしは、常駐する職員がいなかったのも、自分たちで生活を維持し、身の回りのことは全て自分で行なってきました。今までの自由な暮らしを続けたいという方もいるので、尊重しながら距離を置いての見守りを行なっていきます。(そうま)

たまり場ぱれっと

～《6月》^{がっ}開放日^{かいほうび}
リベンジ^{たかおさん}高尾山～

6月15日(日)に予定していた、開放日『チャレンジ! 高尾山に登ろう!』はあいにく雨天のため中止となりました。参加者からの希望の声が多い高尾山登山ですが、昨年に引き続き決行することができていません。今回は高尾山に精通しているボランティアの方との下見や運営ボランティアの皆さんによる検討も重ねていましたが、天候にかなわず断念いたしました。今年度中にまた再リベンジをしたいと意気込んでいます。参加者の中には、「登った後に駅にある温泉に入りたい」「次はいつやるの?」など高尾山に行くことを待ち遠しく思っている方もいました。高尾山は世界で1番登られている山とも言われていますが、山頂を目指すには険しい道中もあるため安全対策が必要です。参加した皆さんが楽しめるようにこれからも計画していきたいと思います。(たけい)

おかし屋ぱれっと

～仕事後の“プチレク”
はじめました～

以前から、通所員や親の会より交流・お楽しみ企画の要望が出ていました。まずは実現できそうな小さなことから何かできたらいいなと職員も考えていました。そんな時、ぱれっと近くのコンビニのイートインスペースが改装で無くなり、ある通所員が毎週金曜日の仕事後、コーヒーを飲んでホッと一息つく恒例の時間が持たなくなってしまったことが分かりました。親御さんの協力もあり、おかし屋ぱれっと内で「週末コーヒー部」としてハンドドリップでコーヒーを楽しむ企画を立てると、早速多くの申し込みがありました。希望者全員で話し合いをし、1回目はホットコーヒー好きの5人、次はアイスコーヒー好きの5人で開催することにしました。どちらも自分達で豆を挽くところから始めました。ひと口飲んだ時の顔がとてもいい表情でした。アイスコーヒーの回は、参加者の好きな音楽をかけていると、いつの間にか部屋を暗くしてダンスパーティー(?!)に。通所員たちの希望やアイデアを今後も形にしていけたらいいなと思います。(やまもと)

ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ)

～スリランカ招聘プログラム始動～

スリランカのサハンセバナ(障がい者が菓子製造を行なう作業所)から幹部職員を日本に招いて視察や意見交換を行なう招聘プログラムが動き始めました。この企画は現地で働く障がい者のグループホームを建設するため、日本の仕組みを学んでもらう目的で実施します。まだ決まっていないところもありますが、スリランカから日本に来るためには、まず現地の日本大使館へビザを申請し、許可を受けなければなりません。その書類を作成していると、昔レストランでスリランカ人コックのビザ取得に苦戦したことを思い出します。9月始めの実施に向けて着々と準備を進めています。

(みなみやま)